

2022年度

てんとう虫君通信

第3号



発行 パルシステム山梨 課題推進 食・農

お問い合わせ先：パルシステム山梨 活動支援課 055-243-6327

課題推進チーム「食・農」では、組合員と役職員のメンバーで「食べものと生命のつながり」について啓発活動を行ってきました。食べものそのものも「生命」、田んぼや畑にもたくさんの「生命」が関わっています。パルシステムが進めている環境保全や資源循環型農業を視点を置き、今回の最終号でも分かりやすくお届けしたいと思います！

メンバーが行ってきた『生きもの観察』や過去の『てんとう虫君通信』など課題推進食・農の活動内容もぜひご覧ください→



内部学習会を行いました ～田んぼの生きもの調査～



2023年2月17日、課題推進チーム食・農の内部学習会として「田んぼの生きもの調査学習会」を行いました。講師には大潟村産直会オーリア21の金子さん、産直事業本部産直推進課の田村さんと関根さんがいらして下さいました。パルシステムでは、田んぼの生きもの調査を行っており、オーリア21、JAこまち、JA新潟かがやき、JA新みやぎの4か所の産地で、栽培基準ごとに生きもの調査を行い見つけた生きもの種類を数えています。田んぼで生きものが暮らしていることが、まさに田んぼの安全性を証明してくれます。結果としては、どの産地でもコア・フード栽培の田んぼの生きものが最も多かったということ、産地により、多い種類の生きものが違っていたという事が分かりました。オーリア21では田んぼが八郎潟にあるため鯉の稚魚などの魚があり、JA新潟かがやきではトンボが多く見られるそうです。またJAこまちでは一部の地域で準絶滅危惧種となっているアカハライモリが見つかり、それはエサとなるイトミミズやミジンコが多くこの田んぼに棲んでいるからだと分かったそうです。JA新みやぎではドジョウの稚魚が多く見つかりました。イトミミズなどが土を柔らかくしてくれるため、水を抜いた後の田んぼの土の中でもドジョウは棲み続けることができ、そこで冬を越すそうです。今回の学習会を通し、田んぼの中の生きものと生きものとの関係、生きものと稲の関係について知ることができました。



イベントを行いました はじめての読書会 ～あなたの気づきへのお手伝い～



「はじめての読書会」は食・農メンバーにとっても未知のイベント企画でした。とにかく本を選定して読んでみましょうということから始まり、メンバーそれぞれ食・農に関する本を選び、心に残る部分をピックアップして他のメンバーと共有しました。その中で読書会企画の提案メンバーが選定した「沈黙の春」を軸に組み立てることに決定。

「沈黙の春」（レイチェル・カーソン著）は約60年前に発表されたものですが、まさに現代社会における自然破壊を言い当てており、今でも世界中の人々に読み継がれている20世紀のベストセラーといえる書籍です。

読書会の流れとしては、テーマ①身近で生物多様性が失われているなど感じる事 ②私たちが出来ること のふたつを設定し、それに関する部分の朗読後ディスカッションという形をとりました。

テーマ①では、ミツバチが激減している シカなどの獣害 カエルやコウモリをあまり見なくなったなど テーマ②では無農薬・減農薬の生産物を選択 殺虫剤・除草剤を使わない など子どもたちにどうしたら安全な環境を残せるのか？という意識を持って選択する といった話し合いがなされました。

参加者の方々からは、なかなか一人では読めない本にふれられて良かった。自分一人では気が付かなかった意見や観点で考えることができてよかったなどのご意見をいただき、食・農メンバーも充実した時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。知らなかったことを知ることが出来る読書。素敵な時間でした。

～読書会を終えて～

「沈黙の春」は「読んでみたいと思いつつ読んでいない」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私もその一人でしたが、今回の「読書会」は、この本を読書するとても良い機会となりました。

大学生メンバーが問題とすべきところを抜粋してくれて、そこを朗読後、ディスカッションしたのですが様々な意見が出て時間が足りないくらいでした。

参加者の皆さんが「楽しかった」と言ってくださり、この読書会が副題の通り「食・農」に対する「気づき」に繋がって、どんどん広がってくれることを期待したいと思います。

メンバー 1年間のまとめ



この1年で植物を育て、畑での生きもの調査、田んぼの生きものの学習会、『沈黙の春』の読書会を行い、生きものと食べものの繋がりを考えてきました。畑の調査では有機栽培の畑に驚くほど沢山の種類の生きものがいるのを実際に見て、読書会からは生きもの同士のつながりや種の均衡について考えることができました。1年間で学び伝えるだけでなく、メンバーでの会議など多くの経験を得、その上大変楽しく活動できました。みなさまありがとうございました。

組合員メンバーC.O

直近の学習会は田んぼの生きもの調査報告でした。パルシシステムの産直産地の田んぼでは希少な生きものが報告されています。活動の中でも田んぼのフィールドワークが実現できていたらと少々残念な気持ちです。今年度、組合メンバーは3名(現役大学生も参加!)でそれぞれの良いところを職員さん、理事さんがサポートしてくださり、オンラインがメインでしたが、楽しく活動できました。ありがとうございました。

組合員メンバーK.K

今年度もオンライン中心の活動にはなってしまいましたが、初めてのチャレンジが多く、楽しく勉強になった1年となりました。改めて「私たちが食べているものは多様な生きものが関わる自然の中で育っている」という大事なことを感じることができました。一人でも多くの組合員さんにお伝え出来たらいいなと思っています。ありがとうございました。

理事メンバーN.N

「生命」のつながりの大切さを主なるテーマに食農の活動は始まりました。「バケツ稲」や「大豆を育てよう」の企画に参加した際は、広大な土地で育てる生産者の苦勞に改めて感謝し、「畑で生きものを探そう」イベントでは、多種多様な生き物が住む土壌に驚きました。活動などを通じて、人間、虫や鳥などの生命を守る為に土壌や環境へ配慮し続ける大切さを学んだ一年でした。

理事メンバーY.M

今年度活動してきて、生物多様性や田畑の役割などを再認識し、人がくらししていく上で、食べもの・生きもの・環境など全てが繋がっており、かかわりあっているということを改めて考える機会となりました。これからも便利さだけを求めず、いろいろな事や物を大切にしながらくらししていきたいと思いました。一年間、ありがとうございました。

理事メンバーM.K

組合員メンバー3名、役職員メンバー5名の計8名で、1年間「食べもの」と田畑の「生きもの」のつながりなどを通して「食と農」についての活動をおこない情報発信しました。バケツ稲・お家で大豆にチャレンジし、訪れた生きものの様子をHPで紹介。市川三郷町のねづ農園のねづ畑を視察しイベントを開催。殺虫剤などによる自然循環の破壊に警告を発した著書「沈黙の春」を使用した読書会イベントの開催など、さまざまなことにチャレンジし、多くのことを学んだ1年となりました。

職員メンバーS.N

今年一年の活動を通じて、あらためて畑や田んぼには、収穫の作物だけではなく、たくさんの命が息づいていることを実感しました。特に10月に開催した『ねづさんの畑で生きものを探そう!』では、本当に久しぶりの現地でのリアル開催で、生の畑で生の生産者さんと生の作物・生きものと触れ合うことができ、とても嬉しかったです。食べものは「生命」そのもの。食べものと生命の繋がりを今一度見つめなおすことができました。

職員メンバー A.N